

阿寒国立公園満喫プロジェクト地域協議会 阿寒地域部会（第2回）  
議事概要

1. 日 時：平成28年10月26日（水）10：00～12：15
2. 場 所：阿寒湖まりむ館 多目的ホール
3. 出席者：出席者名簿のとおり
4. 議 事

■開会

○北海道環境生活部環境局生物多様性保全課 小林 自然公園担当課長 挨拶

■議題

(1) 阿寒国立公園満喫プロジェクト ステッププログラム2020（素案）について

○環境省から資料1、2、3、参考資料に基づき説明。

○意見等の概要

【前田一步園財団】

3点確認させていただきたい。6頁の旅行形態の「団体」についての考えを伺いたい。3頁の公園データにおいて希少性のあるものと一般的なものを一緒に記載されているが、これについては色々な意見が出ると思う。5頁のコンセプトについて、自然・野外がメインと感じられるが、アイヌ文化、伝統があるので、これらを活用し雨の日でも屋内でお客様に楽しんでいただけるような見せ方ができればよいと思う。

【環境省】

6頁の公園利用者については「団体」もターゲットの一つと考えている。只今のご意見を伺い、ここに団体の記載を加えた方がよいと考える。3頁の動植物については公園を紹介する既存資料から基本的に持ってきたもの。今後、阿寒国立公園をアピールするため、外国人や旅行者に訴えかけるよう、写真等を掲載したいと考えている。「こういったものをPRすべき」、というものについては、今後パンフレットなどで情報発信するときに考えたいので、ご意見いただければ。5頁のコンセプトについて、雨天時の体制については、いろいろな方からそのような意見をいただいております、重要な視点と考えており、追加を検討したい。

【足寄町】

3頁について、オンネトー湯の滝は保全に取り組んでいただいているものであり、現象であるので扱いが難しいと思うが設定していただきたい。

【環境省】

オンネトー湯の滝は重要な魅力の一つでビューポイントにも入っているため、工夫できるか検討したい。

【釧路市産業振興部】

コンセプトは内向きというか、我々関係者並びに地元の者に向けてのコンセプトとなっていくのか、それとも外に向けてのコンセプトになっていくのか。

外に向かっていくのであれば、旅行意欲の喚起につながる工夫が必要であると思うし、最低でも英語で作り上げていくことが必要。外向きであるのか、内向きであるのか整理をしていただきたい。

#### 【環境省】

コンセプトは、まずは協議会の中で共通認識をすべきものと考えている。ステップアッププログラムを協議会の関係者で策定するうえで、このようなコンセプトで取り組みを進めて行きましょうということや、協議会のメンバーの中で阿寒の魅力をアピールする方向性について共通認識を持つことが重要と考えている。海外に向けてアピールしていくのはその次の段階であり、その部分は資料1の最後で述べたプロモーションの中でそれぞれターゲットごとへのアピールを検討していくことになる。

#### 【釧路市産業振興部】

それであれば、「火山と森と湖が織りなす原生自然を堪能する」を共通目標として進めていくことになるが、この共通目標では我々がどういう取り組みをしていくか具体的なイメージがつきにくいので、より一歩踏み込んだ、具体的な取り組み姿勢のようなものが必要と思う。

今後の進め方について、コンセプトで「関係者相互に有機的な連携を図る」とあり、これは広域的な連携をイメージされている。インバウンド相手に考えた場合、日本でも小さな島国でしかなく、その中の北海道という単位を見つけるのも大変で、その中の阿寒摩周国立公園となると相当難易度の高い見つけ方になっていく中で、個性を打ち出していくというのは、どこか1箇所とか、どこか1地域とか、どこか1つのビューポイントでは国際競争力はない。そうすると広域連携しながら、他国のナショナルパークや高級リゾートと対決するように持って行く観点からすると、当然のことから連携して様々な魅力を複層的に魅せていって、多様なターゲットにいかにか訴えかけるかという視点が大事と思う。そうした時に「阿寒と摩周で別」だよと、わざわざ、ここに記載されているのは、いささか誤解を生じるのかなと思う。面で見せていくことなのか。ある程度ブロック分けにしていく中で見せていくのか、取り組みを進めて行くのか、11市町の国立公園構成自治体が連携して打ち出していこうという動きがある中で、あえて、それぞれということに疑問を感じている。その点の考えを示していただきたい。

#### 【環境省】

阿寒地域と摩周地域を分ける必然性はないかもしれない。ただ、阿寒国立公園の中でも様々な自然の質、魅力があって、ここでは、それぞれの魅力を活かした形で見せていくということを行っている。特にブロック分けする必然性はないかもしれないが、連携しつつも特色はあるので、その特色を打ち出していく考えである。

#### 【釧路市・産業振興部】

方向軸、コンセプトとして、ここは非常に重要。面で見せていくのか、そうじゃないのかは関心の高いところ。お客様の動きを考えたとき、阿寒国立公園を目指したときには、知床まで行かないことは考えづらい。国際的な競争に勝つという視座では、大雪、知床、釧路湿原ときっちりと魅力を打ち出しながら、いかにお客様を獲得していくのか競うこととなると思っている。そういう視座にたった取り組み方針をお考えいただければと意見をさせていただく。

#### 【北海道】

地域の魅力が異なるというところに想いがある。面で見せていくというお話があったが、個人で外国から来られる方にはいろいろなニーズがあって、例えば、自然を楽しみたい、単にのんびりしたい方もいて、来られる方の心情も様々なものがあるとき、阿寒国立公園というのは、こういうところですよと特徴立てていくのか、それとも、ここに行けば、こういう特徴があってあなたのニーズに応えられます。別のところに行けば、ゆっくりできで、あなたのニーズに応えられます。多様なニーズの方々に応えられるような打ち出しをしていくということで、同じ国立公園の中でも地域の特色を出していくのは従来から考えられております。地域を完全に分けてしまうやり方ではなく、今、言ったように色々なニーズに応えられる特色を出していくことと考えております。

#### 【環境省】

書き方としては、多層な魅力を示しつつ連携していくという感じと思うので、検討させていただく。

#### 【阿寒観光協会まちづくり推進機構】

世界自然遺産を目指しているマリモの取扱い、どのように積極的に見せていくかが抜けているかと感じる。マリモの展示、魅力を積極的に情報発信していくという切り口があった方がよいと思う。

スキー場関連の話が書かれているが、このスキー場はF I Sの大会も行われるかなり本格的なスキー場となってる。山岳リゾートということ考えると、スキー場の拡幅とか、特に感じているのはユニバーサルデザインであり、リフトでは健常者の方しか登れず、体の不自由な方、高齢の方が山頂に登って、景色を見るというのは大きな付加価値と考えており、その手段としてゴンドラの検討があれば、ありがたい。

阿寒摩周国立公園という名称変更を考えると、中標津から摩周湖まで伸びているロングトレイルコース、これを阿寒につなげて、阿寒から中標津までのトレイルを実現できないかと検討する価値はあるかなと思っている。

富裕層といったときに、空からの遊覧が方策としてあり得ないか、自然公園のよさを活かしつつ、満喫していただけないか、上か見た景色は他にはないすばらしいものが見えるだろうと思うので、そのような仕組みづくりを検討いただければと感じている。

また、二次交通については、基本的にプロジェクトでは表示が中心と意識してよろしいか。

#### 【環境省】

二次交通については、まずは地域の方々にどうしていきたいかということを検討いただきたいと思っている。

マリモについて、10頁の阿寒湖の具体的な取り組みの中でどう見せていくのかというのが、今後、重要テーマになると考えている。どう見せていくかは、色々な方との調整、検討が必要と思っている。釧路市で世界遺産に向けた取組が進められていることもあり、事務局として考えていたのは、Cの「ツアープログラム作成とガイド育成」というところで、まずはどのようなマリモの見せ方と利用のあり方があるか、地域の方々の意見を踏まえて検討していく必要があると考えている。その中で、例えばマリモについてはこういう見せ方がいいのではといった方向性が定まれば、具体的に観光協会の方で行われているツアーの中に取り込んでいただくとか、そういったことを現段階では考えていた。ただし、例えば12月の取りまとめの前までに地域の関係者間で話し合っていたら、マリモについては、このような見せ方で進めて行こうと合意が得られれば、新しく項目を加えて、より具体的な記載にすることも可能と考えている。

ゴンドラについても、ステップアッププログラムはある程度実現可能性が担保されたものについて、皆で力を合わせてやっていこうというものなので、まずは地域の方々の中でご議論いただき、これでいこうというものを載せていただくというイメージを考えている。具体的に書けないということであれば、今後検討していきましょうといった内容でもよいのではと考えている。

ロングトレイルについても、いろいろな方面からご意見が出ている。ビューポイントというよりは公園全体の取組として記載するイメージを考えているが、こちらについても実施主体を書く必要があり、例えば阿寒国立公園広域観光協議会で音頭を取って進めていくなど、そのような整理が必要と考えている。

空からの遊覧については、素案に記載のある「上質な宿泊施設の誘致」の中で、どのようなアプローチが必要かについても地域合意を得ながらも検討していくことが必要と考えている。

#### 【阿寒観光協会まちづくり推進機構】

マリモについて、ツアープログラム開発のカテゴリーではなく、もう少しインフラ的なものを取り組むべきと感じている。マリモの保護の歴史、またアイスランドでは絶滅したということで世界唯一であるという特色をいかに、これまでの保護の活動、前田一歩園財団の活動と共通するところがあるが、そこにアイヌの自然共生がからみ、そういったことをいかに情報発信していくかというのが、まさに富裕層が好むストーリー性だと思うので、それをどのようにプログラムに入れていくかを是非工夫していただきたい。

#### 【環境省】

マリモについては、地元で世界遺産を目指されている経緯もあり、新たなハード整備という検討については慎重に進めて行く必要があると考える。満喫プロジェクトについては、

そのような世界遺産の話も踏まえて進めいくことが重要である。

マリモの歴史のPRについては非常に重要である。環境省のエコミュージアムセンターでもマリモの展示を行っており、今後その展示内容を拡充したり、あるいは、他の施設でストーリー性のある展示を増やしていくということも考えられる。

ステップアッププログラムについては、実現可能性を踏まえる必要があり、誰が主体になるのか、それについて予算的な措置、あるいは地域の合意が得られるかどうかということとは、是非考えていただきたい。

#### 【前田一步園財団】

10頁について、他との差別化を図っていくために大事なのが、Cの「ツアープログラムの開発とガイド育成」においてどういった魅力を発見し、それをどう見せていくかというソフト対策が一番重要と考える。

居心地のよいところは必要であるが、他地域でも、ハード的な競争でいうとドバイのような高層マンション、ホテルのように行きついたものもある。もちろん、居心地の良さを担保することは大事だが、阿寒湖に来たら何が見られるか、阿寒湖にしかないものは何なのか、阿寒湖に来たらどんなことができるのか、どんな体験ができるのか、どんな思い出を持って帰れるのかというところが、一番、他と競争していく武器になる。同じ素材でも、今、阿寒観光協会がおっしゃったように、上から見るのか、下から見るのか、中から見るのか、色々な見せ方というのは、魅力をさらに磨き上げていく一つの手段であると思う。我々前田一步園財団で持っている森林などを満喫プロジェクトの中でおいに活用していただき、この地域の発展に貢献したいと考えている。

林野庁、釧路市、北海道、地権者など、魅力的な資源を管轄する者が複数いるので、私も一部ガイドの育成事業を行っているが、いったん組織の壁をとりはらって、阿寒湖にはどういった魅力があるのかということ再度整理した上で、スポットライトをあてたり、魅力ある点を見つけ出し、それをどう線で結んでいくのか、どう見せていくのかということ、このプログラムでしっかり創っていく必要があると思う。

ツアープログラムの開発には、一プレーヤーとして前田一步園財団も積極的に参加したいと思っているが、環境省の方で、地権者のような立場の方々を一段高いところから全体をまとめ上げていただく積極的な役割を果たしていただきたいと思っている。

#### 【環境省】

全体的な話については、Cの最初で、環境省として本年度から検討を進めたいと考えている。検討を進める際には、地域の方々の意見を踏まえながら、阿寒湖においてどのような利用プログラムが必要なのかを取りまとめていきたいと思っている。

前田一步園財団においては、森の案内人のガイドなどの取組を進められているので、Cの部分については是非項目を追加していただけるとありがたい。

#### 【釧路市総合政策部】

市の都市計画課としては、街並み形成の観点から参画している。阿寒湖畔については、

国立公園の区域内ということで、計画区域の規制については国立公園の管理計画に基づいて機能していると考えている。その中で、どのように取り組むかという点で言うと、さらに規制を強めていく方向性なのか、例えば景観協定とか、建築協定とか、そういう方向性で規制強化するのか、全体像、イメージを共有する中で紳士協定、地域のローカルルール、ゆるやかな協定の中で進めていくのか、そういった手法になると思う。地域として、どのような景観のあり方が望ましいかという部分について、基本的な認識を一致させる動き、そのような取り組みを関係者、業者、町内会、商店街、そういったところと意見交換を進めながら取り組んでいくことが必要かと思っているので、その点で努力していければと思っている。

#### 【釧路市産業振興部】

このステップアッププログラムに記載された事業というのは、実際に進めるにあたって、各々の責任において取り組むことになると思うが、資料3の各省事業の概要に属さないものの取扱いをどのようにすればよいのかというのが率直な疑問である。

プログラムに記載されたものは、何かしらの事業に対する支援をいただけるのか、それはそれぞれの地域において行ってくださいということなのか。一応、確認の意味でお訊きしたい。

具体的に言うと、アクセスルートについては、国道と道、市道があると思うが、道路管理者が各々について行う場合に、道道、市道の場合は判る。では、国道を誰がどのように行っていただくか、それは環境省の方で国土交通省とやり取りをするのか、私たちが国土交通省と要望のやり取りをするのか、そういう具体的な事業になった時にどのような手続きを踏まれるのかということ併せて確認させていただきたい。

#### 【環境省】

前段の予算などについては両方あるかと考えている。資料3は満喫プロジェクトに使える可能性のある予算を例示しており、先程言われた街並み景観を改善する予算など、国の支援を得られるようなものはある。ただ、全ての事業について国の支援が得られるというものではないため、満喫プロジェクト全体のコンセプトでもある地域の方が主体的に取り組むことが必要と考えている。満喫プロジェクトは、地域が熱心に取り組んでいるところに国としても厚く支援するという方針である。

アクセスルートについては、現在の案では環境省の取組のみが記載されているが、例えば道の駅での取組について、市の方で「こういった取組ができる」と考えているものがあればインプットしていただきたい。その際国土交通省に相談することがあれば、環境省や北海道を通してでもよいし、この部会には国土交通省にも参画いただいているので、この場でも議論はできるかと考えている。

関係省庁からはプロジェクトについて協力いただけると聞いているので、参考資料として示している各省事業で使えるものがあれば、是非使っていただきたい。

#### 【津別町】

屈斜路湖カルデラの外輪山もビューポイントに入れていただき感謝する。津別町としては関連する場所が少ないということもあるが、阿寒摩周国立公園全体として活性化し、発展するように協力して進めていきたい。

#### 【足寄町】

アクセスルートの周辺で、国道から入ったところに「巡回するには時間がかかるが、空いている時間に入り込んで楽しんで寄っていただくツール」がないかと思っている。

#### 【北海道観光振興機構】

機構の内部議論から、機構が行った調査の結果からも、インバウンド、国内観光客を含めて、もっと滞在型の観光を推進していかなければならないということが大前提としてある。そういった意味でも今回の中に出てきているツアープログラムとガイドの育成は非常に重要なことと思う。先程、釧路市からあった知床、層雲峡などと連携し、大きな面で見せていくということも重要と思う。一方で、これは国内客が中心であるが、毎日、荷解きをして、毎朝、荷造りをするという旅スタイルがリピーター獲得につながっていないという結果も出ている。北海道に期待する旅のスタイルでは33%の方が滞在型を求めており、33%という数は、過去に海外旅行をしたことのある人とクロスチェックすると38%まで伸びる。このような結果からも国内で言えば、沖縄、京都で行われているような基地を決めた観光スタイルが望まれている。国立公園というものを軸とした阿寒というエリアにベースキャンプをかまえて、そのエリアの中をじっくりと楽しむということを推奨していけるモデル地域になればいいと感想をもっている。

#### 【自然公園財団阿寒湖支部】

10頁の中、「観光案内、ツアーの手配の一元化」、「ツアープログラムの開発・実施」、このあたりのところが重要であると考えていた。5頁の2のコンセプトの中に非日常の体験を世界の人々に提供するということや、持続可能な利用を推進する。ということが入っており、その基となる中に今後施設や体制の維持をどうするということが最後に書いている。これを合わせると逆のことを言っているという感じが少しあるが、これを両立させていかないと将来にむけて継続してやっていけない。地域が一所懸命やっていただけたところに色々な予算を配分するという話を先程されていたと思うが、こういうことが、きちんとできるかどうかということが大事である。着地型のツアーの開発やアイヌの文化といった部分に付随して、トレイルの管理がすごく大事なことと思う。トレイルによって普通の観光客がそのまま利用できるものもあれば、上級の登山ができる人でなければいけないところもあり、野生動物に関する知識がなければ無理であるところもある。そこに入り込むことも非常によいことで、非日常を体験できると思うが、その自然を保全して持続して使っていかなければならない。そういうことを考えたときにモニタリングということも必要と思う。プロジェクトを持続させていくためのシステムというのを創っていけないと、せっかく始めても、何年かたつと途絶えてしまうことになる。利用者のニーズも変わっていくと思うので、柔軟に対応できるシステムの構築が一番大事と思って話を聞いていた。

世界遺産という話につながるのですが、阿寒カルデラの範囲の中、外来種というもののへの対応も中に入れていただけるとよいかと思っている。環境省の方で駆除を行っている湯の滝のテラピアについては、かなり努力していただき、いい成果が得られている。そこまで行かないでも、外来種の管理ができることは非常に大事だと思うので、地域の人たちが集まって、この部分は将来大事だから絶対残していくためにどうしようということを含めて動かしていける組織をここで創っていただければと思う。

ロングトレイルの話があったが、コンセプトの最初に「火山と森と湖が織りなす原生自然を堪能する」とあり、それを堪能できそうな場所に駐車場やレストハウスなどの施設をいろいろ建てる、また、トイレが使えないのであれば片付けるとか、もっと言えば、そこに屋根が付いてゆっくり休めるスペースを新たに設けるとか、そういうものもあってもいいかと思う。そういうことができるのであれば、利用される方ができるだけ気持ちよく利用できるようなものも考えていただければと思う。

#### 【環境省】

ステップアッププログラムに係る組織づくりについては、利用のあり方の全体構想を検討していく中で、どのような組織が必要かについてもまずは地域の方々の意見を聴いていきたい。

外来種対策について、環境省としては引き続き取り組んでいきますが、満喫プロジェクトのメニューに外来種対策を入れて行くかについては少し検討が必要と考えている。

施設整備等については、今後、具体的な意見を出していただければ、可能な部分は書き込むように配慮していきたい。

#### 【阿寒観光協会まちづくり推進機構】

先程出てきた滞在型観光というのは大変重要と思っている。ついでには、いろいろな方にゆったりと滞在していただく、目的がいろいろあると思うので、多様性に合わせた品揃えというのをしっかりと磨き上げ、特にアイヌ文化、アートもかなり重要と思っている。

#### 【津別観光協会】

津別峠の関係は先程町からも話があったが、ビューポイントに入れていただき感謝する。

#### 【前田一步園財団】

国際的に統一された表示、標識というのはあるものか。少なくとも阿寒摩周国立公園のビューポイントでは、インバウンドの方が判りやすいものがないと思う。

#### 【環境省】

標識については地域の方でも議論があるところ、地域での議論を踏まえつつ、また国際的なデザイン等も踏まえつつ、外国人の方を含めて分かりやすい、統一的なものを検討していきたい。

#### 【北海道】

道はこれから施設整備を行っていきますが、当然、一体感を持った整備をしていきたいと思っております。一つ悩ましいのが、絵の部分については一定程度共通デザインという

があると思うのですが、多言語表示をどこまで行うかということについては、踏み込んだ調整を行っていきたい。なぜ、この話をしたかと言うと、アジアから来られた方があちこち歩いて、母国語があちこちにあるというのを見て、逆に興ざめする、旅行のわくわく感がなくなるというようなご指摘もありました。やり過ぎ感ということもありますので、本当に目視できるような、どこに行くのか簡単に判る標記については英語と日本語だけ、確実に守っていただきたいことは複数の言語でという、多言語の使い分けというのも検討の余地があるということです。皆様のお知恵をお借りしながら進めていきたいと考えております。

#### 【阿寒アイヌ工芸協同組合】

9～11月までアイヌアート展を開催しており、70点の作品を展示している。見に来てくれた方から常設展示を望まれている、アイヌアートミュージアム構想を是非とも作って欲しいとお願いしている。一つには、欧米の方の関心が高いと思われます。いろいろアンケートをとっているが、英語のものも多い。今、内容は判っていないが、取りまとめたかと思っている。展示している70点の作品はコタンの人たちが作ったものだが、その人たちの技能を若い人たちに伝えていく共通の工房が必要かと思っている。

それと合わせて、アイヌコタンの一帯をイオル構想が始まっているので、体験のできる場という形になってくると、アイヌコタンの魅力が増してきて、精神性も伝わり、一日すごせる場になるといいかと思っている。そのようなものを満喫プロジェクトで作ってくれるのか。

#### 【環境省】

イオル構想については、釧路市を中心として進められていると思うが、環境省関係では既設のエコミュージアムセンターなどにアイヌの常設展示を拡充して、そこからコタンに足を運んでいただくような形で進めたいと考えている。

前回の部会でもアイヌ文化、思想に沿った取り組みを進めていただきたいと意見をいただいているので、10頁、Cの「ツアープログラムの開発」の中にアイヌ文化の関心や理解を深めてもらうことを含めるとか、まちなみ景観の中にアイヌコタンの魅力向上のための検討を進めるといった内容を記載している。この部分については、特にハードはなくても、阿寒湖でアイヌコタンに来られて文化に触れて、コタンの方から話を聞いたり、ご飯を食べたりということはプログラムとしても成立すると思う。阿寒湖でアイヌ文化を広めていくためのツアープログラムの開発に是非参画いただきたい。

#### 【林野庁根釧西部森林管理署】

国有林が阿寒国立公園の中に6万9千ヘクタールあり、それを4つの森林管理署で管理している。満喫プロジェクトについては、国を挙げてということもあり、各省庁は協力してあたるという立場であり、皆様と連携を深めて、あるいは協力をしながら進めさせていただきたいと考えている。

一つだけお願いしたいことは、もし施設整備で山を開発するということがあれば、諸手

続きには時間がかかるものもあるため早めにご相談いただきたい。

【国土交通省北海道運輸局釧路運輸支局】

先程多言語表示の話があったが、観光庁の方で多言語表示のガイドラインを作成している。簡単な例でいうと、観光温泉と観光スパとか統一されていない部分がある。

来年、阿寒摩周国立公園に名称変更されるということで、パンフレットをはじめ、いろいろなものが作り直されると思うので、こういった場を活用して、皆様と情報共有されていくのがよいと思う。

我々運輸局では、地域の海外プロモーションを行っている。これまで運輸局では、北海道の強みとして、雪とドライブというのを前面に出して強調するプロモーションを10年位行ってきたが、今後、アドベンチャートラベルという分野に少し力を入れていこうと思っている。国立公園満喫プロジェクトと歩調を合わせて海外向けに情報発信していきたい。

特に欧米向けに力をいれていこうと思っており、非常に大きいマーケットがある。日本はまだまだ立ち後れているが、着実にマーケットは大きくなっていくと思う。そういう意味でも、この地区の魅力は何かということをお客様で議論して、コンセプトを決めたらぶれずに10年、20年これで行くと想いを込めて、コンセプトを創っていただけたらいいと思う。

【国土交通省北海道開発局】

3月に第8期の北海道総合開発計画をつくり、それに基づき様々な事業を行っている。その中でも食と観光は大きな柱となっている。

そういった中で満喫プロジェクトについて協力させていただきたいと思っているところであるが、一方で、ステップアッププログラムに書き込まれると、国が全てできるのかとか、補助事業が全て採択されるのかということと言われてしまうと、環境省と違い、このプロジェクトのために特別に予算をいただいている形にはなっていないところもある。ご希望があればお伺いして、できるものがあれば行わせていただきたいと思っている。そのあたり、調整させていただければ、ありがたいと思っている。

私どもも様々なことを行わせていただいております。阿寒では、阿寒湖温泉という交差点名の標識を立てたり、道の駅でも無料でWi-Fiを使えるスポットを整備したりしている。また、10月から二ヶ月間、北海道ドライブ観光バスという社会実験を行っており、この阿寒湖温泉地域からも2施設から協力をいただいている。この観光バスの実験は来年も行いたいと思っているので、是非、地元の方でご関心ある方がいれば、ご参画いただければと思っている。

また、今回の台風災害で道路の通行止めなど、ご不便をおかけしたところであるが、9月から局の方で、国道と道道の通行止め情報を今まで日本語版だけで出していたが、英語版での発信も開始し、24時間リアルタイムで更新されている。こういった意味では、外国の方にも、今、どの道が通れるのかということが判るようになってきている。適宜、いろいろなご意見をいただきながら、できるものがあれば行わせていただきたいと思ってい

る。

【釧路市産業振興部】

7頁のアクセスルートの特定のところで、3つの空港、釧路、女満別、中標津ということですが、ユーザー側の視点から考えた時に北海道の主たる玄関口、ほぼ、大宗を占めているのは新千歳空港ですので、この点を意識しておかないと様々なプロジェクトを進めていくのは、かなり難しいのではないかと考えている。

新千歳空港からレンタカーで来られる方もいるし、この点についての情報提供も今後の公園利用の推進には必要ではないかと考えている。今回の災害によって、JRが止まったことにより、観光地としては非常に大きな影響を受けたところ。外国人の皆さん、ジャパンレールパスというフリーパスを持っておられますので、JRで行けない場所はパスお持ちの方はいけない場所ということになってしまうことになりがちである。アクセスルートという点では、新千歳空港とJRを意識していないと、いささかという感じがありますので、その点ご検討いただきたい。

先程、開発局から発言のあったとおり、他省庁では満喫プロジェクトの予算は特にお持ちでない、そうすると、それぞれの省庁とすり合わせしていかないと我々の想いだけではなかなかできないのではと思う。そうすると、例えば、11自治体関わって、各メンバーが考える「このような整備が必要でないか」と、環境省と北海道以外がする部分について一定の取りまとめとすり合わせする場が必要ではないかと思っておりますので、その点、事務局である環境省と北海道にまずはお願いしたいと思う。たとえて言うならば、先程から環境省が支援を考えられないという二次交通の整備というのは避けておれない事業となる。その他のアクセスに関する事項とされている「阿寒横断道路」も夏期間と冬期間の期間限定でしかバスは走っていない。そういう状況をいかにクリアしていくかということをご皆さんの中で考えていきながら、いかに解決していくかが必要であり、周遊についても検討するべきと思う。

さらに先般、アドバイザーが来ていただいた時に、話題となりましたサイクリングという国立公園の利用の仕方、現在、ライフラインとなっている高速道路を含めた社会インフラということについても、しっかりと取り組まないと利用者数が増加していかないのではと懸念がある。

林野庁は新聞記事であります、レクリエーションの森の再整備をインバウンド向けにとのお考えをお持ちのようですので、そういった観点からも様々なすり合わせが必要ではないかと思った。

次の8頁でございますが、減少傾向への取り組みが全体の取組方針の中に位置づけておくか否かとの検討が必要ではないかと思った。

次のビューポイントについても、河川に目を向けることも必要かと、阿寒川、釧路川が際だってくるかと思うので検討してお示しいただきたいと思う。

最後に14頁のプロモーションについて。最初の項目で本年度、海外プロモーションを

実施するとしておりますが、今、この場でなくてもよいので、どのようなことをどう進めるのかお示しいただきたいと、我々がどのように関与するのかといったことになると思い、関心を持っているので、なるべく早くお示しいただきたいと思っています。

現在、このエリアは国の広域観光周遊ルートにも指定されており、そこで一体的な面でのプロモーションも実施されている。そういったところとの連携ということも意識した形のなかで、このプロモーションの取組が必要ではないかと思えますし、当然のごとく観光庁であったり、JNTO日本政府観光局としっかりと連携した形で効果性の高い発信ということを取り組むべきではないかと思えますし、北海道と北海道観光振興機構の取組とも連携していくということが、この阿寒摩周国立公園にとって重要ではないかと思いましたので意見させていただきます。発信だけするのではなく、地元側として、きちっと受入体制を整えていく必要があると思えます。阿寒国立公園といを大々的に打ち出したものの、その後、詳細情報に行ったところに多言語表示がない、国立公園をあまり意識しないコンテンツだったりすると、お客様はこれだと思いますので、関係する皆様が意識統一する中でしっかりとした整備、再整備を含めて必要ではないかと思えます。

あと、連携相手としましては、JRはジャパンレールパスを海外向けに発信しておられますし、NEXCOも高速道路のフリーパスという形の中で海外発信しているということから、そういったところを意識したプロモーション、連携をしっかりと意識した中で取り組む必要があると思えますので、その点を意見させていただきました。今回、430万人のお客を1000万人にするのは相当なことと思えますし、阿寒摩周国立公園にとってはチャンスだと思っておりますので、何卒、お聞きいただければと思います。

#### 【環境省】

国の機関との協議の場という話があったが、先程、開発局からも具体的にどういう要望があれば、どのようなツールがあると相談に応じられるという話があった。まずは、地域として、例えば11市町でどういうことを行いたいかを取りまとめていただくことが重要と考えている。地域の既存の枠組みの中でも、そのような議論を行う場はあると思うので、そのような場を活用していただき、まず、地域としての取りまとめをお願いしたい。

#### ■閉会

○環境省釧路自然環境事務所 安田統括自然保護企画官 挨拶